令和元年度

川越市上下水道ビジョン進行管理

事業評価

川越市上下水道局

具体的取組・評価指標の評価基準

具体的取組
評価基準は以下の３段階評価とする。

	評価
目標を超えた取組を行った	s
目標どおりに取組を行った	a
目標どおりに取組が進まなかった	b

評価指標
評価基準は以下の３段階評価とする。

	評価
目標を超えて達成した	◎
目標を達成した	○
目標を達成しなかった	×

総合評価の評価基準

総合評価
評価基準は以下の４段階評価とする。

	評価
目標を超えて事業を進めている	S
目標どおりに事業を進めている	A
事業を進めているが、目標を下回っている	B
目標どおりに事業が進んでいない	C

令和元年度　川越市上下水道ビジョン事業評価

S：目標を超えて事業を進めている　　A：目標どおりに事業を進めている

【総合評価一覧表】　　B：事業を進めているが、目標を下回っている　　C：目標どおりに事業が進んでいない

施策方針	基本施策	事　業	シート	総合評価
安全	（1）水質管理	1）水質管理体制の強化	1	A
		2）水安全計画の運用	2	S
		3）小規模貯水槽水道管理の指導強化	3	A
	（2）水源の確保	1）自己水源（地下水）と県水の活用	4	S
	（3）浸水の防除	1）浸水対策	5	A
循環	（1）環境に配慮した事業の推進	1）水循環への貢献	6	B
		2）各種の環境対策	7	B
		3）省エネルギー対策	8	A
	（2）公衆衛生の向上・環境保全	1）水質の保全と管理	9	B
		2）生活排水処理の適正化	10	A
強靭	（1）施設の維持管理	1）管路施設の維持管理	11	B
		2）施設・設備の維持管理	12	S
	（2）地震に対する備え	1）地震対策	13	S
		2）震災時の対応	14	A
持続	（1）業務運営	1）官民連携	15	A
		2）広域連携	16	A
		3）新たな技術の活用	17	S
		4）公有地や施設・設備の効率的利活用	18	A
		5）人材の育成と組織力の強化	19	B
	（2）経営基盤の強化	1）アセットマネジメント	20	A
		2）経営戦略	21	A
		3）不明水対策	22	B
	（3）お客様とのコミュニケーションの推進	1）積極的な情報伝達	23	S
		2）お客様の意見・要望の把握と活用	24	A

【結果集計表】

施策方針	評価			
	S	A	B	C
安全	2	3	0	0
循環	0	2	3	0
強靭	2	1	1	0
持続	2	6	2	0
合計	6	12	6	0

【総合評価結果の講評】

「安全」については、概ね順調に事業が進んでいます。水質管理は水道事業の根幹であり、引き続き県企業局との連携を推進します。
「循環」については、目標を下回る事業が多くありました。水の循環や排水基準について、より一層の啓発に努める必要があります。
「強靭」については、概ね順調に事業が進んでいますが、災害に強く、たくましい上下水道に向けての継続的な取組が重要です。
「持続」については、概ね順調に事業が進んでいますが、安定した上下水道事業サービスを提供するため、人材育成と組織力の強化に努めるとともに経営基盤の強化につながる下水道の不明水対策を計画的に実施する必要があります。

評価事業　上下水道管理センター

施策方針	基本施策	事業	評価
安全	（1）水質管理	1）水質管理体制の強化	A

具体的取組

① 水道法で定められた水質検査を適正に実施します。	s
② 独自の検査項目に基づき、水質検査を実施します。	s
③ 県水の残留塩素濃度の低減化について、埼玉県企業局と協議します。	a
④ 塩素注入設備の改修により、配水残留塩素濃度の平準化を図ります。	a

取組実績

① 水道法で定められた水質検査を適正に実施しました。また、水道法で定められた検査以外にも、原水（地下水）の水質検査を定期的に行っています。

② 水質検査計画に基づき、水質検査を実施しました。また、臨時検査として、工事後の確認等で原水や浄水の水質検査を行いました。

③ 県企業局と協議を行いましたが、周辺市町を含めた広域的な受水体制のため、県水の残留塩素濃度の低減化交渉は難航しています。

④ 令和4年度の霞ケ関第一浄水場の次亜塩設備工事に向けて、実施設計業務委託発注の準備を行いました。

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考
平均残留塩素濃度（末端）（ｍｇ／Ｌ）	0.49以下 0.10以上	0.54	↘	×	指定の給水栓で毎日測定されている残留塩素濃度の年間平均値
	（計算式） 残留塩素濃度合計 / 残留塩素測定回数				

評価理由

水の安全の根幹を成す水質検査については適正に行っています。水のおいしさの要素の一つである平均残留塩素濃度が目標値を達成できなかった要因として、県水の受水残塩が高いことがあります。大久保浄水場から配水しているすべての受水団体に安全な水を供給するため、浄水場に近い本市では、受水残塩が高くなってしまう傾向にありますが、給水栓での残留塩素濃度が市の目安とする0.25～0.70mg/Lの範囲内で運用できているため、評価を「A」としました。

今後の方向性

平均残留塩素濃度が高くなっている大きな要因として、県水の受水残塩が高いことがあるため、引き続き県企業局と協議します。

評価事業　上下水道管理センター

施策方針	基本施策	事業	評価
安全	（1）水質管理	2）水安全計画の運用	S

具体的取組

①「水安全計画」を効果的に運用するため、水安全計画運用会議を年に2回以上開催します。	s

取組実績

① 水安全計画運用会議を3回実施し、水安全計画の運用方法と検証等について議論しました。また、本年度まで策定されていなかった「水安全計画運用会議設置要綱」を策定しました。

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考

評価理由

会議の実施回数、要綱の策定など、当初の目標以上の取組を行ったことから、評価を「S」としました。

今後の方向性

「水安全計画」を効果的に運用していくため、引き続き水安全計画運用会議を定期的に開催し、より一層高いレベルで実効性のある水道システムの維持管理を行います。

評価事業　給水サービス課

施策方針	基本施策	事業	評価
安全	（1）水質管理	3）小規模貯水槽水道管理の指導強化	A

具体的取組

① 小規模貯水槽水道設置者等に、定期の清掃・点検について個別通知します。	a
② 貯水槽水道の適正な管理に係る情報の内容を充実させます。	a
③ 保健所と連携し、貯水槽水道管理の指導に係る事業を推進します。	a
④ 貯水槽水道の設置者及び使用者の意識が向上する方法を検討、実施します。	a

取組実績

① 小規模貯水槽水道設置者約1,500件のうち、500件について個別通知を実施しました。
② 個別通知を発送した500件に、あわせて適正な管理に関するアンケートを実施しました（回答率250/500、100件は郵送戻り）。その結果をもとに今後の方針を検討します。
③ 保健所と貯水槽水道管理のための協議を実施しました。
④ 他市の貯水槽管理マニュアルなどを確認し、意識の啓発方法や管理方法等を調査しました。

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考
点検・検査の受検率（%）	3.0	3.0	↗	○	小規模貯水槽水道の点検・検査の受検率
	(計算式) 貯水槽水道点検・検査件数 / 貯水槽水道数 ×100				

評価理由

個別通知やアンケートの実施等、点検・検査の受検率向上に向けて着実に取組を行っていることから、評価を「A」としました。

今後の方向性

アンケートの集計結果を基に既存のデータを更新し、管理指導の強化に活かしていきます。
設置者約1,500件中500件に通知等を発送しましたが、残りの設置者についても500件単位で随時通知及びアンケートを発送します。
他市調査の内容を精査し、管理方法について検討します。

評価事業　事業計画課・上下水道管理センター

施策方針	基本施策	事業	評価
安全	（2）水源の確保	1）自己水源（地下水）と県水の活用	S

具体的取組

① 地下水の保全・活用に努めます。	a
② 「深井戸維持管理計画」を策定します。	a
③ 関係機関と協議し、効率的に県水を受水します。	a

取組実績

① 深井戸の機能維持修繕及び取水ポンプの交換を実施しました。
② 令和3年度の計画策定に向け、井戸の更新等に関する情報を収集しました。
③ 調達コストの低い地下水を有効活用するため、県水転換率を88%としました。（従来：90%）

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考
平均自己水源利用量（㎥ / 日）	12,500	12,951	↗	◎	自己水源（地下水）の1日当たりの平均利用量
	(計算式)				

評価の理由

自己水源（地下水）のさらなる活用に向けて着実に計画を進めており、指標の平均自己水源利用量も目標値を大きく上回ったことから、評価を「S」としました。

今後の方向性

目標値の達成に向けて引き続き自己水源（地下水）の利用量を増加させるため、計画的に深井戸の機能維持修繕及び取水ポンプの交換を実施します。

評価事業　事業計画課・下水道課

施策方針	基本施策	事業	評価
安全	（3）浸水の防除	1）浸水対策	A

具体的取組

①「川越市雨水管理総合計画」で定めた重点対策地区等を中心に、適切な雨水施設の整備や維持管理を行います。	a
② 浸水や大雨の発生状況を踏まえた「川越市内水ハザードマップ」を適宜見直し、浸水への備えや避難に関する情報を提供することで、市民への注意喚起を行います。	a

取組実績

① 藤原町公園の雨水貯留施設の整備に関する次年度予算・補助金の要望を行いました。
　重点対策地区である高階地区において雨水貯留浸透施設工事の実施設計業務委託を実施しました。
② 今後のハザードマップの在り方について、防災危機管理室と協議しました。

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考
重点対策地区の対策済ブロック数（箇所）	0	0	↗	○	「川越市雨水管理総合計画」により浸水対策の重点対策地区として指定した区域のうち、雨水施設の整備などの対策を行ったブロック数
	※中間目標（R5年度）値が1箇所のため、R1年度目標値は0となっています。				

評価理由

「川越市雨水管理総合計画」に基づき着実に計画を進めていることから、評価を「A」としました。

今後の方向性

計画に基づき、貯留施設の整備と、公園等を活用した雨水貯留施設の整備に向け調整を図ります。
また、重点対策地区である高階地区において雨水貯留浸透施設工事を実施します。
今後も内水ハザードマップの見直しについて検討します。

評価事業　下水道課

施策方針	基本施策	事業	評価
循環	（1）環境に配慮した事業の推進	1）水循環への貢献	B

具体的取組

① 私有地における雨水の一時的な流出抑制と有効利用を図るため、浸透施設や貯留施設を設置する費用の一部を補助する制度を継続するとともに、その啓発活動として、市ホームページや広報への掲載内容の充実を図ります。	a
② 他の公共事業や民間の事業と連携しながら、道路に設置してある雨水ますを浸透ますに変更することや新規に設置する場合についても浸透ますの設置を検討します。	a

取組実績

① 「川越市雨水対策施設設置補助交付要綱」に基づき、浸透施設や貯留施設設置費用の一部補助を行っています。啓発活動としては、市ホームページや広報への掲載のほか、市民センターへのチラシの設置、また、窓口での下水道への接続相談の際にPRを行いました。

② 合流式下水道区域で大規模施設等（500㎡以上）を建設する場合は、事業者に対して雨水の浸透・貯留施設の設置等の雨水流出抑制を行うよう指導しました。

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考
家庭雨水貯留槽及び浸透ます設置数（箇所）	844	839	↗	×	「川越市雨水対策施設設置補助金交付要綱」により、雨水の一時的な流出抑制や有効利用を目的に設置した小型貯留槽および浸透ますの設置箇所数

評価理由

具体的取組に掲げた啓発活動については着実に行っているものの、指標の目標値を達成できなかったことから、評価を「B」としました。

今後の方向性

設置数を増やすためには啓発活動の工夫などの地道な努力が必要です。市ホームページや広報だけではなく、他の手法による周知活動を検討します。

評価事業　総務企画課・財務課・水道課・下水道課・上下水道管理センター

施策方針	基本施策	事業	評価
循環	（1）環境に配慮した事業の推進	2）各種の環境対策	B

具体的取組

① 上下水道局の環境目的に基づき、上下水道事業における環境負荷の低減を図ります。	a
② 上下水道局が管理している公用車について、環境負荷の少ない自動車の導入を推進し、排出ガスの低減を図ります。また、エコドライブの実践に努めます。	a
③ 工事等で発生した建設副産物のリサイクルを推進するとともに、適正に処理します。	a

取組実績

① 川越市環境マネジメントシステム（EMS）に基づき、上下水道局における省エネや省資源などの取組を行いました。
② 新車を購入する際、環境負荷の少ない自動車を購入しました。
③ 発注した工事において、建設副産物のリサイクルを推進し、法律に基づき適正に処理しました。

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考
上下水道局のエネルギー起源CO_2排出量（t−CO_2）	3,546以下	3,833	↘	×	上下水道事業において発生する二酸化炭素排出量。浄水場やポンプの運転管理、工事や自動車における電力・燃料消費が主な排出源
上下水道局の自動車によるNOx・PM及びCO_2排出量（Nox:kg、PM:kg、CO_2:t）	Nox 75.00以下 PM 1.50以下 CO_2 30.00以下	Nox 79.39 PM 1.90 CO_2 36.25	↘	×	上下水道事業において用いる自動車から発生する環境負荷

評価理由

具体的取組については、令和元年度も例年どおり取り組むことができました。評価指標については、上下水道局のエネルギー起源CO_2排出量は、実績値としては前年度と同程度でしたが、目標値を上回っているため、評価を「B」としました。要因の一つとして、令和元年度は落雷による濁水対応のため発電機を稼働させる機会が多く、灯油の使用料が増加しました。

今後の方向性

上下水道局のエネルギー起源CO_2排出量は天候の影響を受けやすく、将来的な予測が難しい部分があります。庁舎等施設のエネルギー使用量については、昼休み時の不必要な照明の消灯、毎週水曜日や毎月5の付く日をゴーホームデーに設定し職員の定時帰宅を図ることで、引き続きエネルギー管理を行います。
公用車の管理については、職員に対してアイドリングストップ、エコドライブの周知徹底を図り、二酸化炭素の排出抑制に努めます。また、新車の購入・買い替えに際しては、今後も可能な限り環境性能に優れた自動車の導入を継続します。
工事等に伴う建設副産物の処理については、今後も受注者に指導を行います。

評価事業　事業計画課・上下水道管理センター

施策方針	基本施策	事業	評価
循環	（1）環境に配慮した事業の推進	3）省エネルギー対策	A

具体的取組

① 上下水道施設における高効率機器の導入など、効果的な省エネルギー対策を推進します。	b
② 配水エネルギーの低減化に効果のある、県水の直送方式の導入可能性を検討します。	a
③ 配水区域のブロック化を実施することで、エネルギー効率の高い自然流下区域の拡大とポンプ圧送区域の縮小による配水エネルギーの低減化を目指します。	a
④ 上下水道管理センターの太陽光発電システムは、引き続き場内利用電力に活用しつつ、他施設への設置について検討します。	a
⑤ 未利用エネルギーとして、下水を熱源とした空調設備等への熱供給や、上下水道管路の落差を利用した小水力・低落差発電の活用可能性について、引き続き検討します。	b

取組実績

① 上下水道施設における高効率機器の導入はありませんでした。
② 県水直送方式の導入可能な箇所の箇所付けを実施しました。
③ 平成30年度に一部ブロック化を実施し、令和3年度の完全ブロック化に向けて準備しています。
④ 上下水道管理センターにおいて、5,773Kwの発電がありました。（参考：前年度6,091Kw）
⑤ 受・浄水場内の小水力発電等の導入については平成24年度に検討していますが、具体的な進展はありません。

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考
配水量１㎥あたりの消費エネルギー（ＭＪ／㎥）	1.63	1.61	↘	◎	配水量１㎥当たりの水道事業すべての施設、事業所で使用したエネルギー量の割合
	(計算式) エネルギー消費量 / 年間配水量				

評価理由

具体的取組に掲げた各種省エネルギー対策については概ね目標どおりに取り組み、指標も目標値を達成したことから、評価を「A」としました。

今後の方向性

引き続き消費エネルギーの低減化に向けて取組を進めます。
高効率機器の導入や未利用エネルギーの活用については、費用対効果を考えながら検討します。
配水区域のブロック化については、令和3年度の完全ブロック化の実施に向けて準備を行います。

評価事業　下水道課・上下水道管理センター

施策方針	基本施策	事業	評価
循環	（2）公衆衛生の向上・環境保全	1）水質の保全と管理	B

具体的取組

① 公共下水道に接続している特定事業場等のうち、規制物質を排出する恐れがある規制対象事業場に対して、引き続き立入検査を行います。また、排除基準を超過した事業場に対しては、事業場の規模や過去の違反状況に応じて注意や勧告等を行い、原因や実状を踏まえて効果的な指導を実施します。	a
② 下水道法施行令に基づき、合流式下水道区域からの雨天時排水の水質に対して、引き続きモニタリングを行います。	a

取組実績

① のべ312事業場について立入検査を実施し、基準を超過した事業場は13件ありました。そのうち12件に注意指導を行い、前年度から連続して超過した1件に勧告指導（いずれも行政指導）を行いました。指導後は、改善措置完了報告書により超過原因や改善内容及び改善後の分析結果を確認し、再度立入検査を実施しました。再検査を実施した事業場についてはすべて改善されています。

② 水質調査業務委託を実施しました。

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考
下水排除基準超過率（%）	3.2	4.2	↘	×	公共下水道を使用している特定事業場に対して、その下水が下水道法における水質基準を超過した特定事業場の割合
	（計算式） 基準超過による指導事業場数〔計・延〕 / 採水検査事業場数〔延〕 ×100				

評価理由

指標の目標値を達成できなかったため、評価を「B」としましたが、取組実績にあるとおり下水道排除基準を超過した事業場に対しては行政指導を行っており、その結果再検査を行った事業場すべてにおいて改善されています。

今後の方向性

超過原因の多くが維持管理の不徹底であることから、立入時及び届出時等に指導・啓発を実施し、維持管理の徹底を図ります。

評価事業　　事業計画課・下水道課

施策方針	基本施策	事業	評価
循環	（2）公衆衛生の向上・環境保全	2）生活排水処理の適正化	A

具体的取組

① 「生活排水処理基本計画書」に基づき、近年の市街化調整区域の接続率の低下を考慮し、費用対効果を踏まえて引き続き効率的な下水道整備に努めます。	a
② 下水道接続率向上のため、下水道整備予定区域の市民に対して、下水道整備に関わる意向調査を行います。	a
③ すでに下水道整備を行った区域の未接続者に対して、積極的に戸別訪問を行い、下水道の接続義務等について指導することにより、継続的に下水道への接続を促します。	b
④ 広報や市ホームページを活用したPR活動をさらに充実させ、市民へ下水道への接続の意識向上に向けた情報提供を行います。	a

取組実績

① 汚水管布設工事を1,348m実施し、5地区約7.58ha整備しました。
② 下水道整備に関わる接続の意向調査を実施しました。
③ 未接続者への訪問活動の方法を検討、準備しました。
④ 市ホームページ、川越市民のしおりに掲載し、市民への情報提供を行いました。

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考
人口普及率（%）	85.7	86.2	↗	◎	行政人口に対して、下水道により処理することが可能な人口の割合
	(計算式) 下水道処理可能人口 / 行政人口 ×100				
下水道接続率（%）	98.0	98.0	↗	○	下水道により処理することが可能な世帯に対して、下水道を利用している世帯の割合
	(計算式) 下水道接続世帯数 / 下水道処理可能世帯数 ×100				

評価理由

具体的取組については、未接続者対策が準備段階で年度中に実施まで至りませんでしたが、指標については、「人口普及率」「下水道接続率」ともに目標値を上回ったことから、評価を「A」としました。

今後の方向性

未接続者への戸別訪問については、今年度から区域を分けて順次行う予定です。
「生活排水処理基本計画」では、令和7年度までに農業集落排水、合併処理浄化槽と併せた汚水処理を100%としていますので、下水道事業計画区域について、計画的に整備を進めます。

評価事業　　事業計画課・水道課・下水道課

施策方針	基本施策	事業	評価
強靭	（１）施設の維持管理	１）管路施設の維持管理	B

具体的取組

① 配水管の洗浄作業を実施します。	a
② 配水管の漏水調査を実施します。	a
③ 弁栓類・弁室の点検を実施し、計画的に修繕します。	a
④ 「老朽管更新計画」（水道事業）に基づき適切に更新を実施します。	a
⑤ 「川越市下水道ストックマネジメント計画」の「点検・調査計画」に基づいて、管路施設の定期的な点検・調査を行い、必要とされる箇所は修繕・改築します。	a
⑥ 管路施設の諸元や維持管理に関する情報をGIS（地理情報システム）等の電子データによる台帳として整理し、膨大な情報の把握や適切な管理を継続します。	a

取組実績

① 14ブロックの洗浄作業を行い、夾雑物の除去・水質の改善を行いました。また、配水管洗浄作業計画を策定しました。
② 調査戸数46,000戸⇒188件の漏水を発見し、修繕を実施しました。
③ 消火栓2箇所、バタフライ弁6箇所の修繕を実施しました。
④ 令和元年度は、配水（補助）管の耐震化工事を21件（延長にして8,967m）実施しました。
⑤ 管きょ延長43.27kmの既設管の調査を行いました。
⑥ GISによる台帳整理及び情報の把握や適切な管理を継続できています。
　管路14.1km、給水栓4,004戸の修正を実施しました。（水道）
　管きょ5.9km、管きょ属性94.8kmのデータ更新を実施しました。（下水道）

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考
有収率（水道）（%）	94.6	93.3	↗	×	水道の総配水量に対して、料金の徴収対象となった水量（有収水量）の割合
	(計算式) 年間総有収水量 / 年間総配水量 ×100				
管路の更新率（水道）（%）	0.97	0.94	↗	×	水道の管路全体の延長に対して、1年の間に更新を行った延長の割合
	(計算式) 当該年度に更新した管路延長 / 管路延長 ×100				
長寿命化管きょ延長（下水道）（km）	33.3	32.3	↗	×	下水道管路において修繕や改築などの長寿命化対策を行った管路の延長
管路施設の点検・調査延長（下水道）（km：累計）	50	50.81	↗	○	下水道管路において点検や調査を行った管路の延長

評価理由

具体的取組については着実に行っていますが、指標の「有収率（水道）」「管路の更新率（水道）」「長寿命化管きょ延長（下水道）」が目標値を達成できなかったことから、評価を「B」としました。

今後の方向性

管路の更新率（水道）や長寿命化管きょ延長（下水道）については、実施予算、要員確保との兼ね合いがあることから、厳しい財政状況のもと今後は更なるコスト縮減等を検討する必要があります。

評価事業　　上下水道管理センター

施策方針	基本施策	事業	評価
強靭	（１）施設の維持管理	２）施設・設備の維持管理	S

具体的取組

① 浄水場やポンプ場等の施設・設備を計画的に更新・修繕します。	a
② 浄水場やポンプ場等の施設・設備台帳を整備し、施設情報を一括管理します。	a

取組実績

① 第三次浄水場整備事業として、霞ケ関第二浄水場の配水ポンプ可変速装置の更新を実施しました。
（水道）
制御盤更新を2箇所、監視装置更新を6箇所、計装設備更新を7箇所の計15箇所実施しました。
（下水道）
② 令和元年度に施設台帳を整備しました。

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考
設備点検実施率（水道）（%）	87.1	87.1	↗	○	上水道の浄水場やポンプ施設に設置されている設備に対して点検を行った割合
	(計算式) 点検機器数 / 機械・電気・計装機器の合計数 ×100				
設備更新箇所数（下水道） （箇所：５箇年累計）	8	15	↗	◎	下水道マンホール形式ポンプ場の主要な設備の更新箇所数

評価理由

具体的取組については①②ともに着実に行っており、指標についても「設備更新箇所数（下水道）」は目標値を大きく上回ったことから、評価を「S」としました。

今後の方向性

水道：令和2年度を終期とした第三次浄水場整備事業として霞ケ関第二浄水場及び中福受水場の無停電電源装置の更新を実施します。
下水道：令和元年度～令和5年度（5箇年）の累計目標85箇所に向けて引き続き更新を行います。

評価事業　　事業計画課・水道課・下水道課

施策方針	基本施策	事業	評価
強靭	（２）地震に対する備え	１）地震対策	S

具体的取組

① 水道事業の「重要施設配水管耐震化計画」や、下水道事業の「川越市下水道総合地震対策計画」に基づき、防災拠点等への給水・排水に関わる管路を計画的に耐震化します。	a

取組実績

① 令和元年度は、重要施設配水管の耐震化工事を7件（延長にして2,599m）実施しました。（水道）
「川越市下水道総合地震対策計画」に基づき、下水道管更生工事及び管路施設耐震化工事の実施設計業務委託を実施しました。（下水道）

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考
重要施設配水管耐震化率（水道）（%）	17.8	18.0	↗	◎	防災拠点や医療施設等に給水を行っている重要施設配水管延長に対する耐震化対策を実施した延長の割合
	(計算式) 耐震化済延長 / 全重要施設配水管延長 ×100				
配水管の耐震化率（水道）（%）	21.9	22.1	↗	◎	すべての配水管のうち、耐震化対策を実施した割合
	(計算式) 耐震化済延長 / 配水管延長 ×100				
管きょ耐震化率（下水道）（%）	15.0	15.5	↗	◎	すべての管きょのうち、耐震化対策を実施した割合
	(計算式) 耐震化済延長 / 下水道管延長 ×100				

評価理由

指標すべてにおいて目標値を上回ることができたため、評価を「S」としました。

今後の方向性

引き続き「重要施設配水管耐震化計画」及び「川越市下水道総合地震対策計画」に基づき、耐震化を計画的に進めます。

評価事業　　総務企画課・事業計画課

施策方針	基本施策	事業	評価
強靭	（２）地震に対する備え	２）震災時の対応	A

具体的取組

① 各種危機管理マニュアルを効果的に運用します。	a
② 「業務継続計画（BCP）」の策定・改定や計画に基づく訓練の実施により、災害時対応体制の強化を図ります。	a
③ 災害対応の拠点施設として、上下水道局庁舎の防災機能の強化に努めます。	a
④ 防災拠点への災害用給水タンクなどの設置について検討します。	b
⑤ 避難所や防災拠点におけるマンホールトイレの導入については、汚物を流すための水の確保を含めて設置場所を検討します。	b

取組実績

① マニュアルに則り、防災訓練を実施しました。
② 水道BCP策定の準備として各種資料の収集を実施しました。（水道）
　下水道BCPの見直しを行い、令和2年4月に改定しました。（下水道）
③ 防災機能の維持のため非常用発電機の点検、動作確認を行いました。
④ 具体的な検討に至りませんでした。
⑤ 具体的な検討に至りませんでした。

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考
災害対策訓練実施回数（回 / 年）	1	1	↗	○	地震などの大規模災害に備えて災害対策訓練を実施した回数

評価理由

「水道BCP」の策定準備や「下水道BCP」の改定については、災害対策に着実に取り組んでおり、指標の「災害対策訓練」についても目標どおり行っているため、評価を「A」としました。

今後の方向性

概ね目標どおり事業を進めていますが、給水タンクの設置やマンホールトイレの導入等、より積極的な対策を検討します。

評価事業　　総務企画課

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	（１）業務運営	１）官民連携	A

具体的取組

① 民間委託等の活用や委託範囲の拡大により効率的な事業運営を図ります。	a
② PPP（官民連携）手法の導入については、適切な連携の形態を検討します。	a

取組実績

①② 公民連携検討専門部会及び作業部会を4回開催し、PPP／PFI（公民連携）手法導入に向けた業務の抽出を行い、今後の方向性、課題、実施時期等について検討を行いました。

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考

評価理由

具体的取組①②ともに着実に行っているため、評価を「A」としました。

今後の方向性

引き続き、公民連携検討専門部会及び作業部会を開催し、PPP／PFI手法導入の可否を検討します。

評価事業　　総務企画課

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	（１）業務運営	２）広域連携	Ａ

具体的取組

① 広域化や共同化の必要性や導入について、引き続き県や近隣事業体との協議を続けます。	a

取組実績

① 県が主催する広域化検討会議への参加や、本市が属する第3ブロック水道広域化実施検討部会の開催を通じて、県や近隣事業体との協議を行いました。

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考
広域化検討会議実施回数（回／年）	３	３	↗	○	広域化や共同化の必要性や導入について、県や近隣事業体も含めた検討会議を実施した回数

評価理由

県や近隣事業体との協議を行い広域化や共同化の必要性について検討を進めているため、評価を「Ａ」としました。

今後の方向性

広域化検討会議への参加や広域化実施検討部会の開催を通じて、引き続き他事業体との協議や情報収集に努めます。

評価事業　　事業計画課・給水サービス課・水道課・下水道課・上下水道管理センター

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	（１）業務運営	３）新たな技術の活用	S

具体的取組

① 効果的で効率的な新たな技術の導入を積極的に検討します。	a

取組実績

① 管路施設耐震化工事の設計において、新たな技術の導入を検討しました。（下水道課）
水道工事の新たな方法として、業者提案説明会を実施しました。（事業計画課）
スマートメーターの実証実験を実施している事業体の取組状況について調査しました。（給水サービス課）

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考
新たな技術に関する検討を行う（件／年）	１以上	３	↗	◎	新たな技術の導入についての検討を行った回数

評価理由

各課で積極的に検討を行っているため、評価を「S」としました。

今後の方向性

引き続き先進的な技術の導入の検討を行い、費用対効果を考慮しながら良いものは取り入れていきます。

評価事業　　総務企画課・財務課

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	（１）業務運営	４）公有地や施設・設備の効率的利活用	A

具体的取組

① 上下水道局の公有地のうち、事業予定のない公有地について、利活用の可能性、利活用方法の検討を行う体制を確立し、経営的視点に基づき利活用方針（暫定的な利活用、貸付、売却）を決定します。	a
② 新たな利活用方法として、施設見学の拡充等を検討します。また、付加価値が期待できる施設がないかなど、より親しみやすい上下水道局を目指して、関係機関と調整を図りながら検討します。	a

取組実績

① 事業予定のない払下げ予定地・貸付希望地（公有地）等については、各課と今後の事業予定等について協議のうえ、払下げ・貸付等の決定を行っています。

② 川越市内在住・在学（勤）者向けに、霞ケ関第二浄水場の施設開放を行いました。

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考

評価理由

具体的取組を着実に行っているため、評価を「A」としました。

今後の方向性

事業予定のない公有地については、今後も現在の体制を継続しながら利活用方針を決定します。

評価事業　　総務企画課

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	（１）業務運営	５）人材の育成と組織力の強化	B

具体的取組

① 内部研修の充実や外部研修の積極的活用により、必要な知識や技術の習得を図り、職員全体の能力の向上に努めます。	s

取組実績

① 内部研修については、業務への円滑な対応や専門的知識の習得に向けて、研修内容の充実化を図りました。また、職場におけるOJTを活用し、現場で直接活きる知識・技能の習得を図りました。
　その他にも、関係機関主催の外部研修を積極的に受講し、長期的視野に基づく総合的能力及び危機管理能力の向上に努めました。

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考
内部研修実施時間（時間 / 人）	2.6	1.7	↗	×	必要な知識や技術の習得を目指した、内部研修の実施時間数

評価理由

内部研修は実施時間が少なかったため、指標の目標値に達しませんでしたが、新任者及びそれ以外の局内職員向け研修については、業務への円滑な対応や専門的知識の習得に向けて、職場におけるOJTを活用し、現場で直接活きる知識・技能の習得を図れるような内容にしたため、評価を「B」としました。

今後の方向性

研修は人材育成に欠かせないものであるため、内部研修の更なる充実に努めます。
研修時間については、水道・下水道事業に特化した局内研修を増やすことを検討します。

令和元年度　川越市上下水道ビジョン事業評価シート　　２０

評価事業　　事業計画課

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	（２）経営基盤の強化	１）アセットマネジメント	Ａ

具体的取組

① アセットマネジメント（水道）及びストックマネジメント（下水道）を実施し、中長期的な視点による効率的な事業運営を図ります。	a

取組実績

① 平成29・30年度にアセットマネジメントを修正し、それに基づき事業を実施しています。（水道）
　ストックマネジメント計画に基づき、点検・調査を実施しました。（下水道）

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考

評価理由

具体的取組を着実に行っているため、評価を「Ａ」としました。

今後の方向性

引き続き、アセットマネジメント・ストックマネジメント計画に基づき事業を進めます。
ストックマネジメントについては基礎データを更新し、今後の見直しに向け事業を進めます。

評価事業　　総務企画課

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	（２）経営基盤の強化	２）経営戦略	Ａ

具体的取組

① 水道事業、下水道事業の各事業について経営戦略を策定し、収支計画に基づいた進行管理や経営指標等を用いたモニタリングによる検証を行います。	a
② 経営戦略策定後、内容と実績に差が生じた場合は、見直しを検討します。	

取組実績

① 令和2年3月に「川越市上下水道事業経営戦略」を策定しました。今後は、計画の進捗状況の確認と評価・検証を毎年度行います。

② 実績なし（令和2年3月に策定したため）

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考

評価理由

令和2年3月に「川越市上下水道事業経営戦略」を策定したため、評価を「Ａ」としました。

今後の方向性

今後は「川越市上下水道事業経営戦略」に基づき、計画の進捗状況の確認と評価・検証を行います。

評価事業　　事業計画課・下水道課

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	（２）経営基盤の強化	３）不明水対策	B

具体的取組

① 雨水排水の誤接続について、市ホームページや広報への掲載内容を充実させ、注意喚起を図ります。	a
② 宅内誤接続調査の強化を図り、改善に向けた指導の徹底を図ります。	a
③ 宅地内の排水設備完了検査後も、適切な排水設備となっているか継続して調査を行い、指導改善を図ります。	a
④ 不明水の流入状況調査により浸入原因の特定を行い、ストックマネジメント計画に基づく改築と併せて不明水の流入防止に向けて計画的な対策を実施します。	a

取組実績

① 市ホームページ、上下水道局だより等で市民への周知を図りました。
②③ 令和元年度調査件数784戸中、誤接合のあった件数6戸の指導を行いました。
④ 不明水に関わるデータ分析及び不明水対策計画策定の検討を行い、不明水調査を実施しました。また、不明水対策として、下水道管更生工事（山田地内）を約430m実施しました。

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考
有収率（下水道）（%）	72.9	65.7	↗	×	汚水の処理量に対して、使用料の徴収対象となった水量（有収水量）の割合
	(計算式) 年間有収水量 / 汚水処理水量 ×100				

評価理由

各具体的取組については着実に行っていますが、指標である有収率が大幅に低下しているため、評価を「B」としました。大きな要因として、例年にない降雨量の増加がありました。

今後の方向性

誤接続については、雨水誤接合調査（業務委託）、追跡調査（指導）を継続して行います。
不明水調査については、不明水対策についての方針を基に計画的に調査を行います。また、引き続き計画的に不明水対策工事を実施します。

評価事業　　総務企画課

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	（３）お客様とのコミュニケーションの推進	１）積極的な情報伝達	S

具体的取組

① 新たな媒体の活用を検討し、幅広い情報をタイムリーに発信するよう努めます。	a
② 施設見学会や出前講座などにより、上下水道事業の情報提供、啓発活動を推進します。	a

取組実績

① 市ホームページやツイッター等を利用し、イベント開催の情報を発信しました。

② 川越市内在住・在学（勤）者向けに、霞ケ関第二浄水場の施設開放を行いました。また、川越市内の小学校等からの個別の申し出に応じ、郭町浄水場や中福受水場の施設見学会を行いました。

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考
情報提供、啓発活動の回数（回 / 年）	11	16	↗	◎	上下水道事業における情報提供、啓発活動の実施回数

評価理由

具体的取組①②については目標どおりの取組を行いました。指標については、目標値を大きく上回ることができたため、評価を「S」としました。

今後の方向性

引き続き市ホームページやツイッター等を有効活用し、タイムリーな情報発信に努めます。また、施設開放や見学会、出前講座についても積極的に行っていきます。

評価事業　　総務企画課・事業計画課

施策方針	基本施策	事業	評価
持続	（３）お客様とのコミュニケーションの推進	２）お客様の意見・要望の把握と活用	A

具体的取組

① 各種イベント会場やホームページでアンケート調査を行い、お客様の意見・要望の把握に努めます。	a
② 情報管理やサービスの向上に向け、情報集約システムの整備等について検討します。	a

取組実績

① 霞ケ関第二浄水場施設開放、水道週間ポスターコンクール入賞作品展、上下流交流事業の３つのイベント時に水道に関するアンケート調査を行いました。また、同アンケートを市ホームページに掲載し、電子申請によるアンケート調査も行いました。

② 上下水道施設管理システムの更新準備を進めており、新システムに情報集約機能を盛り込むことを検討しています。

評価指標

指標名	R1目標値	R1実績値	望ましい方向	達成状況	備考

評価理由

具体的取組①については、目標どおりの取組を行いました。②についても、情報集約機能を盛り込んだ新システムへの更新の準備を着実に進めているため、評価を「A」としました。

今後の方向性

各種イベントやアンケート調査を継続し、そこから得た意見・要望を事業運営に活かしていきます。上下水道施設管理システムの更新準備に当たり、情報集約機能については引き続き導入を検討します。